

**オブジーボ点滴静注 20mg、オブジーボ点滴静注 100mg に係る
医薬品リスク管理計画書**

本資料に記載された情報に係る権利及び内容についての責任は小野薬品工業株式会社にあります。当該情報を適正使用以外の営利目的に利用することはできません。

小野薬品工業株式会社

オブジーボ点滴静注 20mg、オブジーボ点滴静注 100mg に係る
医薬品リスク管理計画書 (RMP) の概要

販売名	オブジーボ点滴静注20mg、100mg	有効成分	ニボルマブ（遺伝子組換え）
製造販売業者	小野薬品工業株式会社	薬効分類	87429
提出年月		平成29年3月	

1.1. 安全性検討事項

【重要な特定されたリスク】		頁	【重要な潜在的リスク】	頁
間質性肺疾患	4	腎障害（腎不全・尿管 間質性腎炎を含む）	過度の免疫反応	24
重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横 紋筋融解症	5		胚胎児毒性	25
大腸炎、重度の下痢	7	副腎障害	心臓障害（心房細動、徐脈、心室 性期外収縮等）	26
1型糖尿病	8	脳炎	溶血性貧血	27
肝機能障害	9	重度の皮膚障害	【重要な不足情報】	頁
甲状腺機能障害	11	静脈血栓塞栓症	該当なし	28
神経障害	13	Infusion reaction		
		免疫性血小板減少性紫斑 病 (ITP)		

1.2. 有効性に関する検討事項

使用実態下での根治切除不能な悪性黒色腫患者 における有効性	29	使用実態下での再発又は難治性の古典的ホジキン リンパ腫患者における有効性	29
使用実態下での切除不能な進行・再発の非小細胞 肺癌患者における有効性	29	使用実態下での再発又は遠隔転移を有する頭頸 部癌患者における有効性	29
使用実態下での根治切除不能又は転移性の腎細胞 癌患者における有効性	29		

↓上記に基づく安全性監視のための活動

2. 医薬品安全性監視計画の概要	頁
通常の医薬品安全性監視活動	31
追加の医薬品安全性監視活動	
市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞 癌）	31
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用 成績調査（全例調査）	31
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対 象とした特定使用成績調査（全例調査）	32
根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対 象とした特定使用成績調査（全例調査）	34
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者 を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	36
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対 象とした使用成績調査（全例調査）	38
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製 造販売後臨床試験	39
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上 皮癌）患者を対象とした製造販売後臨床試験	40
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上 皮癌を除く）患者を対象とした製造販売後臨床 試験	40
化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患 者を対象とした製造販売後臨床試験	41
2つの用法・用量における根治切除不能な悪性黒 色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	41
進行性又は転移性の淡明細胞型腎細胞癌患者を 対象とした製造販売後臨床試験	42
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者 を対象とした製造販売後臨床試験	42

3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要	頁
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用 成績調査（全例調査）	44
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対 象とした特定使用成績調査（全例調査）	44
根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対 象とした特定使用成績調査（全例調査）	44
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者 を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	44
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対 象とした使用成績調査（全例調査）	44
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製 造販売後臨床試験	44
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上 皮癌）患者を対象とした製造販売後臨床試験	44
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上 皮癌を除く）患者を対象とした製造販売後臨床試験	44
化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患 者を対象とした製造販売後臨床試験	44
2つの用法・用量における根治切除不能な悪性黒 色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	44
進行性又は転移性の淡明細胞型腎細胞癌患者を 対象とした製造販売後臨床試験	44
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者 を対象とした製造販売後臨床試験	44

↓上記に基づくリスク最小化のための活動

4. リスク最小化計画の概要	頁
通常のリスク最小化活動	45
追加のリスク最小化活動	
市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）	45
医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成・提供	45
患者向け資材（オブジーボによる治療を受ける方へ）の作成・提供	45

各項目の内容は RMP の本文でご確認下さい。

(別紙様式)

医薬品リスク管理計画書

平成29年3月23日

独立行政法人医薬品医療機器総合機構理事長 殿

住所：大阪府中央区久太郎町一丁目8番2号

氏名：小野薬品工業株式会社
代表取締役社長 相良 暁 印

標記について次のとおり提出します。

品目の概要			
承認年月日	平成26年7月4日	薬効分類	87429
再審査期間	1. 10年 2. 5年10ヵ月 3. 平成28年8月26日 ～平成33年10月16日 4. 平成28年12月2日 ～平成38年12月1日 5. <u>平成29年3月24日</u> <u>～平成33年10月16日</u>	承認番号	① 22600AMX00768000 ② 22600AMX00769000
国際誕生日	平成26年7月4日		
販売名	① オブジーボ点滴静注20mg ② オブジーボ点滴静注100mg		
有効成分	ニボルマブ（遺伝子組換え）		
含量及び剤型	① 1バイアル（2mL）中にニボルマブ 20mg を含有する注射剤 ② 1バイアル（10mL）中にニボルマブ 100mg を含有する注射剤		
用法及び用量	1. 根治切除不能な悪性黒色腫 ・化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者の場合： 通常、成人にはニボルマブ（遺伝子組換え）として、1回3mg/kg（体重）を2週間間隔で点滴静注する。 ・化学療法既治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者の場合： 通常、成人にはニボルマブ（遺伝子組換え）として、1回3mg/kg（体重）を2週間間隔又は1回2mg/kg（体重）を3週間間隔で点滴静注する。 2. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌、根治切除不能又は転移性の腎細胞		

	<p>癌、再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫、<u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌</u></p> <p>通常、成人にはニボルマブ（遺伝子組換え）として、1回3mg/kg（体重）を2週間間隔で点滴静注する。</p>
<p>効能又は効果</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 根治切除不能な悪性黒色腫 2. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 3. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 4. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫 5. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌</u>
<p>承認条件</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること。 2. 国内での治験症例が極めて限られていることから、製造販売後、一定数の症例に係るデータが集積されるまでの間は、全症例を対象に使用成績調査を実施することにより、本剤使用患者の背景情報を把握するとともに、本剤の安全性及び有効性に関するデータを早期に収集し、本剤の適正使用に必要な措置を講じること。
<p>備考</p>	<p>再審査期間中</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成26年7月4日承認：根治切除不能な悪性黒色腫 ・平成27年12月17日承認事項一部変更承認：切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌 ・平成28年2月29日承認事項一部変更承認：根治切除不能な悪性黒色腫の用法及び用量の変更 ・平成28年8月26日承認事項一部変更承認：根治切除不能又は転移性の腎細胞癌 ・平成28年12月2日承認事項一部変更承認：再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫 ・平成29年3月24日承認事項一部変更承認：再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌

<p>変更の履歴</p>	
<p>前回提出日：平成28年12月2日</p>	
<p>変更内容の概要：</p>	
<ol style="list-style-type: none"> 1. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌の効能・効果に関する承認事項一部変更承認に基づく内容を追加し、記載整備を実施した。</u> 2. 「2. 医薬品安全性監視計画の概要」の根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）の実施期間及び登録期間の変更 3. 「2. 医薬品安全性監視計画の概要」の切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）の実施期間及び登録期間の変更 4. 「2. 医薬品安全性監視計画の概要」の根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特 	

定使用成績調査（全例調査）の実施期間及び登録期間の変更

5. 「4. リスク最小化活動の概要」の追加のリスク最小化活動に設定されている医療従事者向け資材（適正使用ガイド）について、再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌を対象とした資材の新規作成及び既存の資材の記載整備
6. 「4. リスク最小化活動の概要」の追加のリスク最小化活動に設定されている患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の記載整備
7. 「5. 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧」における報告書作成予定日の変更

変更理由：

1. 1、5、6 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌の効能・効果に関する承認事項一部変更承認のため
2. 2、3、4、7 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）、切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）及び根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）について、患者登録のみへと移行したため

1. 医薬品リスク管理計画の概要

1.1 安全性検討事項

重要な特定されたリスク	
間質性肺疾患	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、本剤との因果関係が否定できない間質性肺疾患が 1.7%（1/59 例）に認められ、Grade3 以上は認められなかったが、重篤例が 1.7%（1/59 例）で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）では 5.4%（6/111 例）に認められ、Grade3 以上が 1.8%（2/111 例）で、重篤例が 4.5%（5/111 例）で認められた。この Grade3 以上の 1 例は死亡の転帰となっている。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-15）では 5.9%（1/17 例）に認められ、Grade3 以上が 5.9%（1/17 例）で、重篤例が 5.9%（1/17 例）で認められた。固形癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209003）において、本剤との因果関係が否定できない間質性肺疾患が 5.6%（17/306 例）に認められ、Grade3 以上が 2.0%（6/306 例）で、重篤例が 3.6%（11/306 例）で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では 3.8%（16/418 例）に認められ、Grade3 以上が 1.0%（4/418 例）で、重篤例が 1.7%（7/418 例）で認められた。なお、対照群のドセタキセル水和物（以下、DOC）群では、0.5%（2/397 例）に認められ、Grade3 以上が 0.5%（2/397 例）で、重篤例が 0.3%（1/397 例）で認められた。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）では 2.3%（11/474 例）に認められ、Grade3 以上は認められなかったが、重篤例が 0.8%（4/474 例）で認められた。なお、対照群では副作用は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では全体集団において 4.4%（18/406 例）に認められ、Grade3 以上が 1.5%（6/406 例）で、重篤例が 1.7%（7/406 例）で認められた。なお、対照群のエベロリムス（以下、EVE）群では 17.6%（70/397 例）に認められ、Grade3 以上が 3.3%（13/397 例）で、重篤例が 3.8%（15/397 例）で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）では 4.1%（10/243 例）に認められ、Grade3 以上が 0.4%（1/243 例）で、重篤例が 1.6%（4/243 例）で認められた。<u>頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）では全体集団において 2.1%（5/236 例）に認められ、Grade3 以上が 0.8%（2/236 例）で、重篤例が 0.8%（2/236 例）で認められた。なお、対照群の治験医師選択治療を受ける群（以下、投与群 IC）では 0.9%（1/111 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。</u></p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 通常の医薬品安全性監視活動

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 追加の医薬品安全性監視活動 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</u> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における間質性肺疾患の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「警告」、「慎重投与」、「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の間質性肺疾患に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>国内臨床試験（ONO-4538-02、ONO-4538-08、ONO-4538-05、ONO-4538-06 及び ONO-4538-15）、<u>海外臨床試験（CA209003、CA209037、CA209066 及び CA209205）及び国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）</u>において、本剤との因果関係が否定できない重症筋無力症、心筋炎、筋炎及び横紋筋融解症は認められなかった。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では、関連事象として Grade3 以上かつ重篤な筋無力症候群が 0.2%（1/418 例）に認められた。なお、対照群の DOC 群では発現は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では、</p>

全体集団において Grade2 の筋炎が 0.2% (1/406 例) に認められたが、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。なお、対照群の EVE 群では認められなかった。国内製造販売後において、重篤な重症筋無力症及び筋炎の副作用が関連事象も含めて 6 例 (2015 年 7 月 31 日時点) 報告されており、心筋炎及び横紋筋融解症は、それぞれ、6 例及び 4 例 (2016 年 8 月 26 日時点) 報告されている。また、重症筋無力症及び心筋炎により死亡に至った症例も認められている。さらに、本剤の薬理作用である免疫の活性化に関連している可能性も考えられるため。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動
- ・ 追加の医薬品安全性監視活動
 1. 市販直後調査 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)
 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重症筋無力症及び筋炎のみ重点調査項目として設定)
 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 6. 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)

【選択理由】

製造販売後における重症筋無力症、心筋炎、筋炎及び横紋筋融解症の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。
- ・ 追加のリスク最小化活動
 1. 市販直後調査による情報提供 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)
 2. 医療従事者向け資材 (適正使用ガイド) の作成、配布
 3. 患者向け資材 (オプジーボによる治療を受ける方へ) の作成、配布

【選択理由】

臨床試験及び製造販売後の重症筋無力症、心筋炎、筋炎及び横紋筋融解症に関する情報を

	<p>医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
大腸炎、重度の下痢	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、本剤との因果関係が否定できない大腸炎（大腸炎、下痢）が 10.2%（6/59 例）に認められ、Grade3 以上が 3.3%（2/59 例）で、重篤例が 1.7%（1/59 例）で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）では 6.3%（7/111 例）に認められ、Grade3 以上が 0.9%（1/111 例）で、重篤例が 0.9%（1/111 例）で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-15）では 11.8%（2/17 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。固形癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209003）において、本剤との因果関係が否定できない大腸炎（大腸炎、下痢等）が 14.1%（43/306 例、Grade3 以上は 3 例）に認められ、また非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では 7.9%（33/418 例）に認められ、Grade3 以上が 0.7%（3/418 例）、重篤例が 0.7%（3/418 例）で認められた。なお、対照群の DOC 群では、22.2%（88/397 例）に認められ、Grade3 以上が 1.5%（6/397 例）で、重篤例が 0.5%（2/397 例）で認められた。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）では 16.5%（78/474 例）に認められ、Grade3 以上が 1.3%（6/474 例）で、重篤例が 0.8%（4/474 例）で認められた。なお、対照群では、15.6%（48/307 例）に認められ、Grade3 以上が 1.0%（3/307 例）で、重篤例が 1.0%（3/307 例）で認められた。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では全体集団において 12.6%（51/406 例）に認められ、Grade3 以上が 2.0%（8/406 例）で、重篤例が 1.7%（7/406 例）で認められた。なお、対照群の EVE 群では 21.2%（84/397 例）で認められ、Grade3 以上が 1.3%（5/397 例）で、重篤例が 0.3%（1/397 例）で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）では 14.4%（35/243 例）に認められ、Grade3 以上が 1.2%（3/243 例）で、重篤例が 1.2%（3/243 例）で認められた。頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）では全体集団において 6.8%（16/236 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。なお、対照群の投与群 IC では 14.4%（16/111 例）に認められ、Grade3 以上が 1.8%（2/111 例）で、重篤例が 1.8%（2/111 例）で認められた。また、国内製造販売後において、Grade3 以上の大腸炎及び下痢の副作用が 5 例報告され（2015 年 7 月 31 日時点）、本剤の薬理作用である免疫の活性化に関連している可能性が考えられるため。</p> <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 ・ 追加の医薬品安全性監視活動

	<ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</u> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における大腸炎、重度の下痢の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p> <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の大腸炎、重度の下痢に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>1 型糖尿病</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>国内臨床試験（ONO-4538-02、ONO-4538-08、ONO-4538-05、ONO-4538-06 及び ONO-4538-15）、<u>海外臨床試験（CA209003、CA209017、CA209057 及び CA209205）及び国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）</u>において、本剤との因果関係が否定できない1型糖尿病は認められなかった。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）では、1型糖尿病の関連事象である糖尿病性ケトアシドーシスが 0.2%（1/474 例）に認められた。糖尿病性ケトアシドーシスは Grade3 以上であり、重篤例であった。なお、対照群では副作用は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では全体集団において 0.2%（1/406 例）に認められ、Grade3 以上が 0.2%（1/406 例）で、重篤例が 0.2%（1/406 例）で認められた。なお、対照群の</p>

	<p>EVE 群では認められなかった。国内製造販売後において、劇症 1 型糖尿病を含む重篤な 1 型糖尿病の副作用が 5 例報告されており（2015 年 10 月 31 日時点）、本剤の薬理作用である免疫の活性化に関連している可能性が考えられるため。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 ・ 追加の医薬品安全性監視活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</u> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における 1 型糖尿病の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 3. 患者向け資材（オブジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の 1 型糖尿病に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
肝機能障害	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、本剤との因果関係が否定できない肝機能障害が 13.6%（8/59 例）に認められ、Grade3 以上</p>

が 6.8% (4/59 例) で、重篤例が 5.1% (3/59 例) で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験 (ONO-4538-05 及び ONO-4538-06) では 7.2% (8/111 例) に認められ、Grade3 以上が 0.9% (1/111 例) で、重篤例が 0.9% (1/111 例) で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験 (ONO-4538-15) では 5.9% (1/17 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。固形癌患者を対象とした海外臨床試験 (CA209003) において、本剤との因果関係が否定できない肝機能障害が 5.9% (18/306 例) に認められ、Grade3 以上が 1.3% (4/306 例) で、重篤例が 1.3% (4/306 例) で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験 (CA209017 及び CA209057) では 3.8% (16/418 例) に認められ、Grade3 以上が 0.7% (3/418 例) で、重篤例が 0.5% (2/418 例) で認められた。なお、対照群の DOC 群では、1.8% (7/397 例) に認められ、Grade3 以上が 0.5% (2/397 例) で、重篤例は認められなかった。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験 (CA209037 及び CA209066) では 6.1% (29/474 例) に認められ、Grade3 以上が 1.9% (9/474 例) で、重篤例が 0.6% (3/474 例) で認められた。なお、対照群では、4.6% (14/307 例) に認められ、Grade3 以上が 0.7% (2/307 例) で、重篤例は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験 (ONO-4538-03/CA209025) では全体集団において 8.6% (35/406 例) に認められ、Grade3 以上が 2.7% (11/406 例) で、重篤例が 0.2% (1/406 例) で認められた。なお、対照群の EVE 群では 6.0% (24/397 例) に認められ、Grade3 以上が 0.5% (2/397 例) で、重篤例は認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験 (CA209205) では 8.6% (21/243 例) に認められ、Grade3 以上が 4.1% (10/243 例) で、重篤例が 1.2% (3/243 例) で認められた。頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験 (ONO-4538-11/CA209141) では全体集団において 1.7% (4/236 例) に認められ、Grade3 以上が 0.8% (2/236 例) で、重篤例が 0.8% (2/236 例) で認められた。なお、対照群の投与群 IC では 3.6% (4/111 例) に認められ、Grade3 以上が 0.9% (1/111 例) で、重篤例は認められなかった。

海外臨床試験 (CA209001) において、本剤との因果関係は否定されているが、肝不全により死亡した症例が 1 例認められたため。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動
- ・ 追加の医薬品安全性監視活動
 1. 市販直後調査 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)
 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査)

	<p>(重点調査項目として設定)</p> <p>5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)</p> <p>6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)</u></p> <p>【選択理由】 製造販売後における肝機能障害の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p> <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌) 2. 医療従事者向け資材 (適正使用ガイド) の作成、配布 3. 患者向け資材 (オブジーボによる治療を受ける方へ) の作成、配布 <p>【選択理由】 臨床試験及び製造販売後の肝機能障害に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>甲状腺機能障害</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験 (ONO-4538-02 及び ONO-4538-08) において、本剤との因果関係が否定できない甲状腺機能障害 (甲状腺機能低下症) が 25.4% (15/59 例) に認められ、Grade3 以上の副作用は認められなかったが、重篤例 (甲状腺機能低下症) が 1.7% (1/59 例) で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験 (ONO-4538-05 及び ONO-4538-06) では 11.7% (13/111 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験 (ONO-4538-15) では 17.6% (3/17 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。固形癌を対象とした海外臨床試験 (CA209003) において、本剤との因果関係が否定できない甲状腺機能障害が 5.6% (17/306 例) に認められ、また非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験 (CA209017 及び CA209057) では 7.7% (32/418 例) に認められ、Grade3 以上の副作用は認められなかったが、重篤例が 0.2% (1/418 例) で認められた。なお、対照群の DOC 群では認められなかった。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験 (CA209037 及び CA209066) では 7.6% (36/474 例) に認められ、Grade3 以上が 0.2% (1/474 例) で、重篤例が 0.2% (1/474 例) で認められた。なお、対照群では、0.7% (2/307 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験 (ONO-4538-03/CA209025) では全体集団において 8.4%</p>

(34/406 例) に認められ、Grade3 以上が 0.2% (1/406 例) に認められ、重篤例は認められなかった。なお、対照群の EVE 群では 1.8% (7/397 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験 (CA209205) では 8.6% (21/243 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験 (ONO-4538-11/CA209141) では全体集団において 7.2% (17/236 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。なお、対照群の投与群 IC では 0.9% (1/111 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動
- ・ 追加の医薬品安全性監視活動
 1. 市販直後調査 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)
 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 6. 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)

【選択理由】

製造販売後における甲状腺機能障害の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。
- ・ 追加のリスク最小化活動
 1. 市販直後調査による情報提供 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)
 2. 医療従事者向け資材 (適正使用ガイド) の作成、配布
 3. 患者向け資材 (オブジーボによる治療を受ける方へ) の作成、配布

【選択理由】

臨床試験及び製造販売後の甲状腺機能障害に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、

	適正使用に関する理解を促すため。
神経障害	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、本剤との因果関係が否定できない神経障害（末梢性ニューロパチー、味覚異常、浮動性めまい等）が 6.8%（4/59 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。</p> <p>非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）では 11.7%（13/111 例）に認められ、Grade3 以上が 0.9%（1/111 例）で、重篤例が 0.9%（1/111 例）で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-15）では 17.6%（3/17 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。</p> <p>海外臨床試験において、本剤との因果関係が否定できない神経障害（末梢性ニューロパチー、頭痛、味覚異常等）は、固形癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209003）では 10.1%（31/306 例）に認められ、Grade3 以上の副作用は認められなかったが、重篤例が 0.7%（2/306 例）で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では 9.3%（39/418 例）に認められ、Grade3 以上が 0.7%（3/418 例）で、重篤例が 0.5%（2/418 例）で認められた。なお、対照群の DOC 群では、31.5%（125/397 例）に認められ、Grade3 以上が 2.5%（10/397 例）で、重篤例が 0.3%（1/397 例）で認められた。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）では 12.9%（61/474 例）に認められ、Grade3 以上が 1.1%（5/474 例）で、重篤例が 1.1%（5/474 例）で認められた。なお、対照群では、21.4%（66/307 例）に認められ、Grade3 以上が 1.3%（4/307 例）で、重篤例が 0.7%（2/307 例）で認められた。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では全体集団において 13.5%（55/406 例）に認められたが、Grade3 以上は認められなかったが、重篤例が 0.2%（1/406 例）で認められた。なお、対照群の EVE 群では 21.7%（86/397 例）に認められ、Grade3 以上が 0.3%（1/397 例）で、重篤例が 0.3%（1/397 例）で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）では 16.5%（40/243 例）に認められ、Grade3 以上が 1.2%（3/243 例）で、重篤例が 0.4%（1/243 例）で認められた。頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）では全体集団において 3.0%（7/236 例）に認められ、Grade3 以上が 0.4%（1/236 例）で、重篤例は認められなかった。なお、対照群の投与群 IC では 14.4%（16/111 例）に認められ、Grade3 以上は認められなかったが、重篤例が 0.9%（1/111 例）で認められた。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 ・ 追加の医薬品安全性監視活動 <p>1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）</p>

	<p>2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</u></p> <p>【選択理由】 製造販売後における神経障害の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布 <p>【選択理由】 臨床試験及び製造販売後の神経障害に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
腎障害（腎不全・尿細管間質性腎炎を含む）	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、本剤との因果関係が否定できない腎障害が 3.4%（2/59 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）では 4.5%（5/111 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-15）では認められなかった。海外臨床試験において、本剤との因果関係が否定できない腎障害（腎不全、尿細管間質性腎炎等）は、固形癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209003）では 2.0%（6/306 例）に認められ、Grade3 以上が 0.3%（1/306 例）で、重篤例が 0.7%（2/306 例）で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では 2.4%（10/418 例）に認められ、Grade3 以上が 0.2%（1/418 例）で、重篤例が 0.5%（2/418 例）で認められた。なお、対照群の DOC 群では、</p>

0.8% (3/397 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験 (CA209037 及び CA209066) では 1.9% (9/474 例) に認められ、Grade3 以上が 0.6% (3/535 例) で、重篤例が 0.4% (2/535 例) で認められた。なお、対照群では、0.7% (2/307 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験 (ONO-4538-03/CA209025) では全体集団において 6.9% (28/406 例) に認められ、Grade3 以上が 1.0% (4/406 例) で、重篤例が 1.0% (4/406 例) で認められた。なお、対照群の EVE 群では 8.8% (35/397 例) に認められ、Grade3 以上が 0.5% (2/397 例) で、重篤例が 1.0% (4/397 例) で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験 (CA209205) では 1.2% (3/243 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験 (ONO-4538-11/CA209141) では全体集団において 0.4% (1/236 例) に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。なお、対照群の投与群 IC では 1.8% (2/111 例) に認められ、Grade3 以上が 0.9% (1/111 例) で、重篤例が 0.9% (1/111 例) で認められた。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動
- ・ 追加の医薬品安全性監視活動
 1. 市販直後調査 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)
 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)
 6. 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)

【選択理由】

製造販売後における腎障害の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。
- ・ 追加のリスク最小化活動

	<p>1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）</p> <p>2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布</p> <p>3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布</p> <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の腎障害に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>副腎障害</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、本剤との因果関係が否定できない副腎障害が 1.7%（1/59 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）では 1.8%（2/111 例）に認められ、Grade3 以上は認められなかったが、重篤例が 0.9%（1/111 例）で認められた。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-15）では認められなかった。海外臨床試験において、本剤との因果関係が否定できない副腎障害（副腎機能不全、続発性副腎皮質機能低下症）は、固形癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209003）では 1.0%（3/306 例）に認められ、Grade3 以上が 0.7%（2/306 例）で、重篤例が 0.7%（2/306 例）で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では本剤との因果関係が否定できない副腎障害は認められなかった。なお、対照群の DOC 群では認められなかった。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）では 0.2%（1/474 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。なお、対照群では副作用は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では全体集団において 1.5%（6/406 例）に認められ、Grade3 以上が 0.5%（2/406 例）で、重篤例が 0.5%（2/406 例）で認められた。なお、対照群の EVE 群では認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）では認められなかった。<u>頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）では全体集団において 0.4%（1/236 例）に認められ、Grade3 以上が 0.4%（1/236 例）で、重篤例が 0.4%（1/236 例）で認められた。なお、対照群の投与群 IC では認められなかった。</u></p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 ・ 追加の医薬品安全性監視活動 <ul style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調

	<p>査) (重点調査項目として設定)</p> <p>4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)</p> <p>5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)</p> <p>6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査 (全例調査) (重点調査項目として設定)</u></p> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における副腎障害の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p> <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌) 2. 医療従事者向け資材 (適正使用ガイド) の作成、配布 3. 患者向け資材 (オプジーボによる治療を受ける方へ) の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の副腎障害に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>脳炎</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>国内臨床試験 (ONO-4538-02、ONO-4538-08、ONO-4538-05、ONO-4538-06 及び ONO-4538-15)、<u>海外臨床試験 (CA209037、CA209066 及び CA209205) 及び国際共同臨床試験 (ONO-4538-03/CA209025 及び ONO-4538-11/CA209141)</u>において、本剤との因果関係が否定できない脳炎は認められなかった。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験 (CA209017、及び CA209057) では 0.2% (1/418 例) に認められ、Grade3 以上が 0.2% (1/418 例) で、重篤例が 0.2% (1/418 例) で認められた。なお、対照群の DOC 群では認められなかった。また、海外におけるその他の臨床試験において、本剤との因果関係が否定できない脳炎は 4 例に認められ、1 例は死亡の転帰となっている (2015 年 4 月 29 日時点)。</p> <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常 of 医薬品安全性監視活動 ・ 追加 of 医薬品安全性監視活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)

	<p>2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</p> <p>6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）</u>（重点調査項目として設定）</p> <p>【選択理由】 製造販売後における脳炎の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布 <p>【選択理由】 臨床試験及び製造販売後の脳炎に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>重度の皮膚障害</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者、非小細胞肺癌患者及び古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02、ONO-4538-08、ONO-4538-05、ONO-4538-06 及び ONO-4538-15）、海外臨床試験（CA209037、CA209066、CA209017、CA209057 及び CA209205）、腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）及び頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）において、本剤との因果関係が否定できない重度の皮膚障害（中毒性表皮壊死融解症（TEN）、スティーブンス・ジョンソン症候群）は認められなかったが、海外におけるその他の臨床試験及びコンパッションエートユープログラムにおいて、本剤との因果関係が否定できない重度の皮膚障害（中毒性表皮壊死融解症（TEN））が 3 例に認められ、いずれの症例も死亡の転帰となっている。（2015 年 4 月 29 日時点）。また、国内におけるその他の臨床試験（ONO-4538-16：腎細胞癌患者を対象とした本剤とイピリムマブの併用療法の臨床試験）において、本剤との因果関係が</p>

	<p>否定できない重度の皮膚障害（スティーブンス・ジョンソン症候群）が 1 例に認められた。本剤の投与は中止され、転帰は軽快となっている。</p> <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 ・ 追加の医薬品安全性監視活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</u> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における重度の皮膚障害の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の重度の皮膚障害に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>静脈血栓塞栓症</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者及び古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02、ONO-4538-08 及び ONO-4538-15）及び海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）において、本剤との因果関係が否定できない静脈血栓塞栓症は認められなかった。国内臨床試験において、本剤との因果関係が否定できない静脈血栓塞栓症（深部静脈血栓症）は、非</p>

小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）では 0.9%（1/111 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。海外臨床試験において、本剤との因果関係が否定できない静脈血栓塞栓症（肺塞栓症、腋窩静脈血栓症）は、非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では 0.2%（1/418 例）に認められ、Grade3 以上が 0.2%（1/418 例）で、重篤例が 0.2%（1/418 例）で認められた。なお、対照群の DOC 群では、0.3%（1/397 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では全体集団において認められなかった。なお、対照群の EVE 群では 0.3%（1/397 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）では 0.4%（1/243 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）では全体集団において 0.4%（1/236 例）に認められ、Grade3 以上が 0.4%（1/236 例）に認められ、重篤例は認められなかった。なお、対照群の投与群 IC では認められなかった。

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動
- ・ 追加の医薬品安全性監視活動
 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）
 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）
 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）
 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）
 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）
 6. 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）

【選択理由】

製造販売後における静脈血栓塞栓症の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。
- ・ 追加のリスク最小化活動

	<p>1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）</p> <p>2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布</p> <p>3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布</p> <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の静脈血栓塞栓症に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>Infusion reaction</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、Infusion reaction は認められなかった。非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）では 4.5%（5/111 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-15）では 5.9%（1/17 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。固形癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209003）において、本剤との因果関係が否定できない注入に伴う反応、過敏症がそれぞれ 3.9%（12/306 例）、1.3%（4/306 例）に認められ、Grade3 以上が過敏症 0.7%（2/306 例）で重篤例が過敏症 0.7%（2/306 例）で認められた。非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では 2.2%（9/418 例）に認められ、Grade3 以上の副作用は認められなかったが、重篤例が 0.5%（2/418 例）で認められた。なお、対照群の DOC 群では、3.8%（15/397 例）に認められ、Grade3 以上が 0.5%（2/397 例）で認められ、重篤例は認められなかった。悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）では 5.3%（25/474 例）に認められ、Grade3 以上が 0.2%（1/474 例）で、重篤例が 0.8%（4/474 例）で認められた。なお、対照群では、5.8%（23/397 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では全体集団において 4.9%（20/406 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。なお、対照群の EVE 群では 0.3%（1/397 例）に認められ、Grade3 以上若しくは重篤例は認められなかった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）では 15.6%（38/243 例）に認められ、Grade3 以上は 0.8%（2/243 例）で、重篤例が 2.1%（5/243 例）で認められた。<u>頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）では全体集団において 1.3%（3/236 例）に認められ、Grade3 以上は認められなかったが、重篤例が 0.4%（1/236 例）で認められた。なお、対照群の投与群 IC では 1.8%（2/111 例）に認められ、Grade3 以上が 0.9%（1/111 例）で、重篤例が 0.9%（1/111 例）で認められた。</u></p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 ・ 追加の医薬品安全性監視活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）</u>（重点調査項目として設定） <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における Infusion reaction の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重要な基本的注意」、「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後の Infusion reaction に関する情報を医療関係者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）</p>	
	<p>重要な特定されたリスクとした理由：</p> <p><u>悪性黒色腫患者、非小細胞肺癌患者、腎細胞癌患者、古典的ホジキンリンパ腫患者及び頭頸部癌患者</u>を対象とした国内外の臨床試験において、免疫性血小板減少性紫斑病の発現は認められていない。国内製造販売後において、免疫性血小板減少性紫斑病が関連事象も含めて、5例（2016年8月19日時点）報告されている。</p> <p>さらに、本剤の薬理作用である免疫の活性化に関連している可能性も考えられるため。</p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動

・追加の医薬品安全性監視活動

1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）
2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）
3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）
4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）
5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）
6. 再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）

【選択理由】

製造販売後における免疫性血小板減少性紫斑病の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。

リスク最小化活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「重大な副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。
- ・ 追加のリスク最小化活動
 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）
 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布
 3. 患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布

【選択理由】

製造販売後の免疫性血小板減少性紫斑病に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。

重要な潜在的リスク

過度の免疫反応

重要な潜在的リスクとした理由：

1. 本剤との因果関係が否定できず、過度の免疫反応に起因することが否定できない事象は、悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）、非小細胞肺癌患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-05 及び ONO-4538-06）、古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-15）、固形癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209003）、非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）、悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037 及び CA209066）、腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）、古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）及び頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）において、それぞれ 44.1%（26/59 例）、33.3%（37/111 例）、35.3%（6/17 例）、75.2%（230/306 例）、17.7%（74/418 例）、37.3%（177/474 例）、30.0%（122/406 例）、21.8%（53/243 例）及び 16.5%（39/236 例）に認められた。重要な特定されたリスク以外の事象として下垂体炎、ぶどう膜炎、膵炎及び貪食細胞性組織球症等が認められている。
2. 非臨床試験において、PD-1 を欠損させた各種系統のマウスでは、各々の遺伝的背景に応じて異なる自己免疫疾患関連症状（BALB/c：自己抗体の産生を伴う拡張型心筋症の発症、C57BL/6：全身性エリテマトーデス様の糸球体腎炎及び関節炎の発症、MRL：自己抗体の産生を伴う心筋炎の発症及び NOD：1 型糖尿病の発症促進）を呈し、PD-1 は自己免疫反応の抑制に関与する分子であることが示唆されている^{1),2)}。
3. 本剤は各種抗原（HBsAg、SKMel 及び DNP-Ficoll）を接種したサル¹⁾の細胞性免疫応答及び液性免疫応答を増強することが示唆されていることから、接種したワクチンに対する過度の免疫応答に基づく症状が発現するおそれがあるため。

出典：1) Okazaki T et al. Trends Immunol 2006;27:195-201.

2) Wang J et al. Int Immunol 2010;22:443-52.

医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：

【内容】

- ・ 通常の医薬品安全性監視活動
- ・ 追加の医薬品安全性監視活動
 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）
 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）
 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）

	<p>4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）</p> <p>5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）</p> <p>6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）</u></p> <p>【選択理由】 製造販売後における過度の免疫反応の発現状況及び発現事象の特徴を把握するため。</p> <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として添付文書の「重要な基本的注意」、「相互作用」、「その他の副作用」の項、及び患者向医薬品ガイドに、投与期間中及び当該事象発現時の注意について記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 <p>【選択理由】 製造販売後の情報を医療関係者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>胎児毒性</p>	
	<p>重要な潜在的リスクとした理由：</p> <p>国内及び海外の臨床試験並びに製造販売後の使用実態下において胎児毒性に関する当該事象は報告されていない。一方、妊娠サルを用いた出生前及び出生後の発生に関する試験において、10mg/kg の週 2 回投与（AUC 比較で臨床曝露量の約 8～23 倍に相当する）により妊娠末期における胚・胎児死亡率あるいは出生児死亡率の増加が認められた。</p> <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常 of 医薬品安全性監視活動 ・ 追加 of 医薬品安全性監視活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） <p>【選択理由】 製造販売後において妊婦に使用された場合に、妊婦に対する情報を収集するため。</p> <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「妊婦、産婦、授乳婦等への投与」の項、及び患者向医薬品ガイドに記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） <p>【選択理由】</p>

	<p>胚胎児毒性に関する情報を医療関係者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）</p>	
	<p>重要な潜在的リスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者を対象とした国内臨床試験（ONO-4538-02 及び ONO-4538-08）において、本剤との因果関係が否定できない心臓障害は 5.1%（3/59 例）に認められ、Grade3 以上の副作用は認められなかった。心臓障害の内訳は、徐脈が 2 例、心房細動及び心室性期外収縮が各 1 例であった。既治療の悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209037）では、本剤との因果関係が否定できない心臓障害は本剤群で 2.6%（7/268 例）に認められ、動悸及び頻脈が各 2 例並びに心嚢液貯留、洞性徐脈、洞性頻脈及び心室性不整脈が各 1 例であった。対照群（化学療法）の 102 例においては心臓障害の副作用は認められておらず、本剤群の心臓障害の副作用の発現率は対照群と比較して高かった。</p> <p>一方、未治療の悪性黒色腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209066）では、本剤群 1.5%（3/206 例）、対照群 5.4%（11/205 例）であり、非小細胞肺癌患者を対象とした海外臨床試験（CA209017 及び CA209057）では、本剤群 1.7%（7/418 例）、対照群 1.0%（4/397 例）であり、腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）では、本剤群 1.2%（5/406 例）、対照群 2.0%（8/397 例）であった。古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした海外臨床試験（CA209205）では 0.4%（1/243 例）に認められ、Grade3 以上が 0.4%（1/243 例）で、重篤例が 0.4%（1/243 例）で認められた。<u>頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）では、本剤群では認められず、対照群では 2.7%（3/111 例）であった。</u></p>
	<p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常の医薬品安全性監視活動 ・ 追加の医薬品安全性監視活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定） 6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）（重点調査項目として設定）</u> <p>【選択理由】</p>

	<p>製造販売後における心臓障害の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p> <p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動として、添付文書の「その他の副作用」の項に記載して注意喚起する。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 3. 患者向け資材（オブジーボによる治療を受ける方へ）の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <p>臨床試験及び製造販売後の心臓障害に関する情報を医療関係者及び患者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。</p>
<p>溶血性貧血</p>	
	<p>重要な潜在的リスクとした理由：</p> <p>悪性黒色腫患者、非小細胞肺癌患者、腎細胞癌患者、<u>古典的ホジキンリンパ腫患者及び頭頸部癌患者</u>を対象とした国内外の臨床試験において、溶血性貧血の発現は認められていない。国内製造販売後において、本剤との因果関係が示唆される溶血性貧血が4例（2016年8月19日時点）報告されている。</p> <p>さらに、本剤の薬理作用である免疫の活性化に関連している可能性も考えられるため。</p> <p>医薬品安全性監視活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常 of 医薬品安全性監視活動 ・ 追加 of 医薬品安全性監視活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査） 3. 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査） 4. 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査） 5. 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査） 6. <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）</u> <p>【選択理由】</p> <p>製造販売後における溶血性貧血の発現頻度及び発現事象の特徴を把握するため。</p>
	<p>リスク最小化活動の内容及びその選択理由：</p> <p>【内容】</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動はなし。 ・ 追加のリスク最小化活動 <ol style="list-style-type: none"> 1. 市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌） 2. 医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成、配布 <p>【選択理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 通常のリスク最小化活動については、本剤との因果関係が明確な溶血性貧血の症例が認められないことから、現時点において添付文書での注意喚起は不要と判断したが、今後の溶血性貧血の発現状況に応じて注意喚起の要否を検討する。 ・ 臨床試験及び製造販売後の溶血性貧血に関する情報を医療関係者に提供し、適正使用に関する理解を促すため。
--	--

重要な不足情報
該当なし

1.2 有効性に関する検討事項

使用実態下での根治切除不能な悪性黒色腫患者における有効性	
	有効性に関する検討事項とした理由： 使用実態下における有効性を確認するため。
	有効性に関する調査・試験の名称： 根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）
	調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由： 使用成績調査において、有効性に関する情報も収集し、有効性に与える要因を検討する。
使用実態下での切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者における有効性	
	有効性に関する検討事項とした理由： 使用実態下における有効性を確認するため。
	有効性に関する調査・試験の名称： 切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）
	調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由： 特定使用成績調査において、有効性に関する情報も収集し、有効性に与える要因を検討する。
使用実態下での根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者における有効性	
	有効性に関する検討事項とした理由： 使用実態下における有効性を確認するため。
	有効性に関する調査・試験の名称： 根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）
	調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由： 特定使用成績調査において、有効性に関する情報も収集し、有効性に与える要因を検討する。
使用実態下での再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者における有効性	
	有効性に関する検討事項とした理由： 使用実態下における有効性を確認するため。
	有効性に関する調査・試験の名称： 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）
	調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由： 特定使用成績調査において、有効性に関する情報も収集し、有効性に与える要因を検討する。
使用実態下での再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者における有効性	
	有効性に関する検討事項とした理由：

	<p><u>使用実態下における有効性を確認するため。</u></p>
	<p><u>有効性に関する調査・試験の名称：</u> <u>再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）</u></p>
	<p><u>調査・試験の目的、内容及び手法の概要並びに選択理由：</u> <u>使用成績調査において、有効性に関する情報も収集し、有効性に与える要因を検討する。</u></p>

2. 医薬品安全性監視計画の概要

通常の医薬品安全性監視活動	
通常の医薬品安全性監視活動の概要： 自発報告、文献・学会情報、製造販売後調査等より報告される有害事象症例の評価	
追加の医薬品安全性監視活動	
市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）	
	実施期間：根治切除不能又は転移性の腎細胞癌の承認から 6 カ月間 評価、報告の予定時期：調査終了から 2 カ月以内
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）	
	<p>【安全性検討事項】</p> <p>間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1 型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害（腎不全・尿細管間質性腎炎を含む）、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、過度の免疫反応、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）、溶血性貧血</p> <p>【目的】</p> <p>本剤の製造販売後における副作用（有害事象）の発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討を行うことを目的とする。</p> <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期間：製造販売承認日から <u>2019 年 5 月まで（見込み）</u> ・登録期間：製造販売承認日から全例調査に係る承認条件の解除までの期間[※] <p><u>※：調査票の収集対象となる登録期間については 2017 年 2 月 28 日で終了</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察期間：12 カ月間 ・目標症例数：製造販売承認日から販売開始 30 カ月後までに登録された全症例（推定 1,700 例、計画立案時：推定約 850 例） <p>ただし、上記期間に収集された症例を基にした解析結果を踏まえ、目標症例数の追加を考慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施方法：本調査は本剤使用患者全例を対象とした中央登録方式にてプロスペクティブに実施する。 ・重点調査項目：間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1 型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等） <p>【実施計画の根拠】</p> <p>国内臨床試験の症例数が限られていることから、使用実態下における重要な特定されたりリスクの発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因につ</p>

	<p>て検討を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察期間の根拠 <p>本剤投与による有害事象のうち、本調査の重点調査項目として設定した事象は、国内及び海外臨床試験（ONO-4538-02 試験及び CA209003 試験）において、その多くが本剤使用開始後 12 カ月以内に発現していることから、本剤の安全性の確認が可能であると考えられる本剤使用開始後 12 カ月を観察期間と設定した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標症例数の根拠 <p>当初、既治療の悪性黒色腫患者として本剤が投与される新規推定使用患者数は、過去の疫学調査等による年間推定患者数、総患者数、及び年間総発生数の情報から、発売 1 年目 439 例、2 年目及び 3 年目が 273 例であると推定されたことより、登録期間を 30 カ月と設定する場合、上記推定に従い 850 例を対象とした調査が可能であるとした。しかしながら、発売 1 年時点で登録患者が約 1,000 例であることから、上記算出に基づき、発売開始 30 カ月時点で計 1,400 例が登録されると考えられる。また、未治療の悪性黒色腫患者については過去の疫学調査等による年間推定患者数、総患者数、及び年間総発生数の情報から、新たな用法・用量に関する承認日以降、発売開始 30 カ月時点で 300 例が登録されると考えられる。</p> <p>【節目となる予定の時期及びその根拠】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全性定期報告時。安全性情報について包括的な検討を行うため。 ・製造販売承認取得後 14 カ月以内に収集された調査票を解析対象（推定 200 例）とした中間の集計解析を行う。早期に医療機関に安全性情報を提供するため。 ・最終のデータ固定が終了した段階で結果報告書を作成・提出する。安全性情報について最終的な検討を行うため。 <p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】</p> <p>節目となる時期に、以下の内容を含めた医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな安全性検討事項の有無も含めて、本使用成績調査の計画内容の変更要否について検討を行う。 ・新たな安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の策定要否について検討を行う。 ・現状の安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の内容変更要否について検討を行う。
<p>切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）</p>	
	<p>【安全性検討事項】</p> <p>間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1 型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害（腎不全・尿管間質性腎炎を含む）、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫</p>

性血小板減少性紫斑病（ITP）、過度の免疫反応、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）、溶血性貧血

【目的】

本剤の製造販売後における副作用（有害事象）の発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討を行うことを目的とする。

【実施計画】

- ・実施期間：本効能・効果の一部変更承認取得日から 2018年6月まで（見込み）
- ・登録期間：本効能・効果の一部変更承認取得日から全例調査に係る承認条件の解除までの期間[※]

※：調査票の収集対象となる登録期間については2016年3月31日で終了

- ・観察期間：12カ月間
- ・目標症例数：1,000例
- ・実施方法：本調査は本剤使用患者全例を対象とした中央登録方式にてプロスペクティブに実施する。
- ・重点調査項目：間質性肺疾患、重症筋無力症、筋炎、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）

【実施計画の根拠】

国内臨床試験の症例数が限られていることから、使用実態下における重要な特定されたリスクの発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討を行う。

- ・観察期間の根拠

本剤投与による有害事象のうち、本調査の重点調査項目として設定した事象は、国内及び海外臨床試験（ONO-4538-05 試験、ONO-4538-06 試験、CA209063 試験、CA209017 試験及び CA209057 試験）において、その多くが本剤使用開始後 12 カ月以内に発現していることから、本剤の安全性の確認が可能であると考えられる本剤使用開始後 12 カ月を観察期間と設定した。

- ・目標症例数の根拠

肺癌患者では肺機能が低下していることが想定され、肺に関する有害事象、特に発現した場合に重症化の可能性がある間質性肺疾患に着目した。非小細胞肺癌患者を対象とした国内第Ⅱ相試験（実施計画書番号：ONO-4538-05、ONO-4538-06；患者数は各々35例及び76例）において、間質性肺疾患の副作用発現症例率は5.7%（2/35例）及び5.3%（4/76例）であった。本調査の間質性肺疾患の副作用発現症例率を5.5%と仮定した場合、目標症例数を1,000例とすると、その95%信頼区間が4.17～7.10%となることより、間質性肺疾患の副作用発現症例率に関する検討が可能と考え、1,000例を目標症例数と設

定した。また、探索的に、本剤使用開始前の肺機能に関する臨床所見（胸部画像検査（X線、CT、MRI等）の異常所見の有無）及び臨床検査（KL-6、SpO₂の正常/異常等）等の要因別の検討に加えて、それ以外に調査項目としている患者背景要因（性別、年齢、喫煙歴、非小細胞肺癌の病期分類や治療歴、その他の病歴、遺伝子検査）別や並行して行われている治療の有無（抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、副腎皮質ホルモン製剤、併用療法（手術療法、放射線療法、免疫療法））別の検討によるリスク因子の検索も可能になると考える。なお、重点調査項目の有害事象の中で最も低い頻度は0.2%（1/646例）となるが、1,000例で0.2%の頻度に対する検出力（少なくとも1例以上の発現が認められる確率）は86.5%であることから、間質性肺疾患以外の重点調査事項も検討可能と考える。

【節目となる予定の時期及びその根拠】

- ・安全性定期報告時。安全性情報について包括的な検討を行うため。
- ・調査開始後12カ月以内に収集された調査票を解析対象とした中間の集計解析を行う。早期に医療機関に安全性情報を提供するため。
- ・最終のデータ固定が終了した段階で結果報告書を作成・提出する。安全性情報について最終的な検討を行うため。

【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】

節目となる時期に、以下の内容を含めた医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。

- ・新たな安全性検討事項の有無も含めて、本使用成績調査の計画内容の変更要否について検討を行う。
- ・新たな安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の策定要否について検討を行う。
- ・現状の安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の内容変更要否について検討を行う。

根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）

【安全性検討事項】

間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害（腎不全・尿細管間質性腎炎を含む）、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、過度の免疫反応、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）、溶血性貧血

【目的】

本剤の製造販売後における副作用（有害事象）の発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討し、また、重要な特定されたリスクのうち、特に間質性肺疾患に関する詳細な検討を行うことを目的とする。

【実施計画】

- ・実施期間：本効能・効果の一部変更承認取得から 2019年4月まで（見込み）
- ・登録期間：本効能・効果の一部変更承認取得から全例調査に係る承認条件の解除までの期間[※]

※：調査票の収集対象となる登録期間については 2017年1月31日 で終了

- ・観察期間：12カ月間
- ・目標症例数：500例（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌の患者）
- ・実施方法：本調査は本剤使用患者全例を対象とした中央登録方式にてプロスペクティブに実施する。
- ・重点調査項目：間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）

【実施計画の根拠】

国内臨床試験の症例数が限られていることから、使用実態下における重要な特定されたリスクの発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討を行う。

・観察期間の根拠

本剤投与による有害事象のうち、本調査の重点調査項目として設定した事象は、国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）において、その多くが本剤使用開始後12カ月以内に発現していることから、本剤の安全性の確認が可能であると考えられる本剤使用開始後12カ月を観察期間と設定した。

・目標症例数の根拠

発売当初より本剤の他の効能・効果における製造販売後調査の重点調査項目として設定され、特に発現した場合に致死的な転帰をたどる症例が報告されており、添付文書の警告欄において注意喚起している間質性肺疾患に着目した。腎細胞癌患者を対象とした国際共同第Ⅲ相試験（日本人の本剤投与患者数は37名）において、本剤のRMPに重要な特定されたリスクとして記載されている間質性肺疾患の副作用発現症例率は5.4%（2/37名）であった。本調査の間質性肺疾患の副作用発現症例率を5.4%と仮定した場合、目標症例数を500名とすると、その95%信頼区間が3.59～7.76%となることより、間質性肺疾患の副作用発現症例率に関する検討が可能と考え、500名を目標症例数と設定した。また、重点調査項目の有害事象の中で最も低い頻度は0.25%（1/406名）であるが、500名で0.25%の頻度に対する検出力（少なくとも1名以上の発現が認められる確率）は71.39%であることから、間質性肺疾患以外の重点調査事項も検討可能と考える。

【節目となる予定の時期及びその根拠】

- ・安全性定期報告時。安全性情報について包括的な検討を行うため。

	<ul style="list-style-type: none"> ・調査開始後 11 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間の集計解析を行う。早期に医療機関に安全性情報を提供するため。 ・最終のデータ固定が終了した段階で結果報告書を作成・提出する。安全性情報について最終的な検討を行うため。 <p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】</p> <p>節目となる時期に、以下の内容を含めた医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たな安全性検討事項の有無も含めて、本使用成績調査の計画内容の変更要否について検討を行う。 ・新たな安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の策定要否について検討を行う。 ・現状の安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の内容変更要否について検討を行う。
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	
	<p>【安全性検討事項】</p> <p>間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害（腎不全・尿管間質性腎炎を含む）、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、過度の免疫反応、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）、溶血性貧血</p> <p>【目的】</p> <p>本剤の製造販売後における副作用（有害事象）の発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討を行うことを目的とする。</p> <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調査期間：本効能・効果の一部変更承認取得から全例調査に係る承認条件の解除までの期間 ・登録期間：本効能・効果の一部変更承認取得から全例調査に係る承認条件の解除までの期間 ・観察期間：12カ月間 ・目標症例数：250例 ・実施方法：本調査は本剤使用患者全例を対象とした中央登録方式にてプロスペクティブに実施する。 ・重点調査項目：間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）

【実施計画の根拠】

国内臨床試験の症例数が限られていることから、使用実態下における重要な特定されたリスクの発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えられとされる要因について検討を行う。

・観察期間の根拠

本剤投与による有害事象のうち、本調査の重点調査項目として設定した事象は、国内及び海外臨床試験（ONO-4538-15 試験、CA209039 試験、CA209205 試験）において、その多くが本剤使用開始後 12 カ月以内に発現していることから、本剤の安全性の確認が可能であると考えられる本剤使用開始後 12 カ月を観察期間と設定した。

・目標症例数の根拠

再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫を対象とした国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-15 試験）において本剤が投与された被験者数は 17 名であり、国内にてさらに多くの使用実態下での安全性評価が必要と考えられた。一方で、本剤の再発又は難治性のホジキンリンパ腫に関する開発では、本邦においてオーファン指定を受けており、患者数は限られている。よって、実施可能性を考慮し、重点調査項目の発現状況が海外臨床試験（CA209205 試験）の結果と大きく異ならないことを確認するために、目標症例数を海外臨床試験（CA209205 試験）と同規模の 250 名と設定した。なお、海外臨床試験（CA209205 試験）における因果関係の否定できない間質性肺疾患の発現率は 4.12%（10/243 名）であり、本調査を 250 名で実施した場合には、発現率 4.12%の事象を少なくとも 1 名以上検出できる確率は 99.99% 以上である。また、重点調査項目の副作用の中で最も低い頻度は 0.41%（1/243 名）であるが、250 名で 0.41%の頻度に対する検出力（少なくとも 1 名以上の発現が認められる確率）は 64.20%であることから、間質性肺疾患以外の重点調査事項も検討可能と考える。

【節目となる予定の時期及びその根拠】

- ・安全性定期報告時。安全性情報について包括的な検討を行うため。
- ・調査開始後 13 カ月以内に収集された調査票を解析対象とした中間の集計解析を行う。早期に医療機関に安全性情報を提供するため。
- ・最終のデータ固定が終了した段階で結果報告書を作成・提出する。安全性情報について最終的な検討を行うため。

【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】

節目となる時期に、以下の内容を含めた医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。

- ・新たな安全性検討事項の有無も含めて、本使用成績調査の計画内容の変更要否について検討を行う。
- ・新たな安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の策定要否について検討を行う。
- ・現状の安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の内容変更要否について検討を行う。

う。

再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）

【安全性検討事項】

間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害（腎不全・尿細管間質性腎炎を含む）、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、過度の免疫反応、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）、溶血性貧血

【目的】

本剤の製造販売後における副作用（有害事象）の発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討することを目的とする。

【実施計画】

・調査期間：本効能・効果の一部変更承認取得から全例調査に係る承認条件の解除までの期間（目安として24カ月）

・登録期間：本効能・効果の一部変更承認取得から全例調査に係る承認条件の解除までの期間（目安として24カ月）

・観察期間：6カ月間

・目標症例数：400例

・実施方法：本調査は本剤使用患者全例を対象とした中央登録方式にてプロスペクティブに実施する。

・重点調査項目：間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）

【実施計画の根拠】

国内臨床試験の症例数が限られていることから、使用実態下における重要な特定されたりスクの発現状況を把握し、安全性及び有効性に影響を与えると考えられる要因について検討を行う。

・観察期間の根拠

本剤投与による有害事象のうち、本調査の重点調査項目として設定した事象は、国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）において、その多くが本剤使用開始後6カ月以内に発現していることから、本剤の安全性の確認が可能であると考えられる本剤使用開始後6カ月を観察期間と設定した。

・目標症例数の根拠

頭頸部癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-11/CA209141）において、本剤のRMPに重要な特定されたりスクとして記載されている間質性肺疾患の副作用発現症例率は

2.12% (5/236 名) であった。本調査の間質性肺疾患の副作用発現症例率を 2.12%と仮定した場合、目標症例数を 400 名とすると、その 95%信頼区間が 0.95～4.06%となることより、間質性肺疾患の副作用発現症例率に関する検討が可能と考え、400 名を目標症例数と設定した。また、重点調査項目の有害事象の中で最も低い頻度は 0.42% (1/236 名) であるが、400 名で 0.42%の頻度に対する検出力 (少なくとも 1 名以上の発現が認められる確率) は 81.43%であることから、間質性肺疾患以外の重点調査事項も検討可能と考える。

【節目となる予定の時期及びその根拠】

- ・安全性定期報告時。安全性情報について包括的な検討を行うため。
- ・調査開始後 15 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間の集計解析を行う。早期に医療機関に安全性情報を提供するため。
- ・最終のデータ固定が終了した段階で結果報告書を作成・提出する。安全性情報について最終的な検討を行うため。

【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】

節目となる時期に、以下の内容を含めた医薬品リスク管理計画書 (RMP) の見直しを行う。

- ・新たな安全性検討事項の有無も含めて、本使用成績調査の計画内容の変更要否について検討を行う。
- ・新たな安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の策定要否について検討を行う。
- ・現状の安全性検討事項に対する、リスク最小化活動の内容変更要否について検討を行う。

根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験

根治切除不能なⅢ期／Ⅳ期又は再発の悪性黒色腫を対象とした国内第Ⅱ相試験 (ONO-4538-02 試験) を、製造販売承認日の時点で製造販売後臨床試験と読み替えて継続実施する。

【目的】

根治切除不能なⅢ期／Ⅳ期又は再発の悪性黒色腫に対する本剤の有効性及び安全性を検討することを目的とする。

【実施計画】

実施期間：2011 年 9 月～2015 年 9 月

目標症例数 (計画時)：35 例

【実施計画の根拠】

国内第Ⅱ相試験 (ONO-4538-02 試験) での投与継続症例 2 例 (2014 年 6 月 20 日現在) を対象とする。

【節目となる予定の時期及びその根拠】

試験終了時及び安全性定期報告作成時

	<p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】</p> <p>節目となる時期に、必要に応じて医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p>
<p>切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上皮癌）患者を対象とした製造販売後臨床試験</p>	
	<p>プラチナ製剤を含む化学療法に抵抗性を示す根治照射不能なⅢB／Ⅳ期又は再発の扁平上皮非小細胞肺癌を対象とした国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-05 試験）を、「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」の承認取得日の時点で製造販売後臨床試験と読み替えて継続実施する。</p> <p>【目的】</p> <p>プラチナ製剤を含む化学療法に抵抗性を示す根治照射不能なⅢB／Ⅳ期又は再発の扁平上皮非小細胞肺癌に対する本剤の有効性及び安全性を検討することを目的とする。</p> <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・扁平上皮非小細胞肺癌 <p>実施期間：2013年2月～2016年7月</p> <p>目標症例数（計画時）：35例</p> <p>【実施計画の根拠】</p> <p>国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-05 試験）での継続症例2例（2015年12月11日現在）を対象とする。</p> <p>【節目となる予定の時期及びその根拠】</p> <p>報告書作成時（試験終了時）</p> <p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】</p> <p>節目となる時期に、必要に応じて医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p>
<p>切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上皮癌を除く）患者を対象とした製造販売後臨床試験</p>	
	<p>プラチナ製剤を含む化学療法に抵抗性を示す根治照射不能なⅢB／Ⅳ期又は再発の非扁平上皮非小細胞肺癌を対象とした国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-06 試験）を、「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」の承認取得日の時点で製造販売後臨床試験と読み替えて継続実施する。</p> <p>【目的】</p> <p>プラチナ製剤を含む化学療法に抵抗性を示す根治照射不能なⅢB／Ⅳ期又は再発の非扁平上皮非小細胞肺癌に対する本剤の有効性及び安全性を検討することを目的とする。</p> <p>【実施計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非扁平上皮非小細胞肺癌 <p>実施期間：2013年2月～2016年7月</p> <p>目標症例数（計画時）：76例</p> <p>【実施計画の根拠】</p>

	<p>国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-06 試験）での継続症例 10 例（2015 年 12 月 11 日現在）を対象とする。</p> <p>【節目となる予定の時期及びその根拠】</p> <p>報告書作成時（試験終了時）</p> <p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】</p> <p>節目となる時期に、必要に応じて医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p>
<p>化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験</p>	
	<p>化学療法未治療の根治切除不能なⅢ／Ⅳ期又は再発の悪性黒色腫を対象とした国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-08 試験）を、「根治切除不能な悪性黒色腫」の用法・用量に関する承認取得日の時点で製造販売後臨床試験と読み替えて継続実施する。</p> <p>【目的】</p> <p>化学療法未治療の根治切除不能なⅢ／Ⅳ期又は再発の悪性黒色腫に対する本剤の有効性及び安全性を検討することを目的とする。</p> <p>【実施計画】</p> <p>実施期間：2014 年 3 月～2017 年 9 月</p> <p>目標症例数（計画時）：24 例</p> <p>【実施計画の根拠】</p> <p>国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-08 試験）での継続症例 15 例（2016 年 2 月 1 日現在）を対象とする。</p> <p>【節目となる予定の時期及びその根拠】</p> <p>報告書作成時（試験終了時）</p> <p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】</p> <p>節目となる時期に、必要に応じて医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p>
<p>2 つの用法・用量における根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験</p>	
	<p>2 つの用法・用量における根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-31 試験）を、「根治切除不能な悪性黒色腫」の用法・用量に関する承認取得日の時点で製造販売後臨床試験と読み替えて継続実施する。</p> <p>【目的】</p> <p>本剤の「2 mg/kg（体重）を 3 週間間隔投与」と「3 mg/kg（体重）を 2 週間間隔投与」の用法・用量について、根治切除不能な悪性黒色腫に対するそれぞれの有効性及び安全性を検討することを目的とする。</p> <p>【実施計画】</p> <p>実施期間：2015 年 11 月～2019 年 12 月</p> <p>目標症例数（計画時）：36 例</p>

	<p>【実施計画の根拠】 国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-31 試験）での目標症例数を対象とする。</p> <p>【節目となる予定の時期及びその根拠】 報告書作成時（試験終了時）</p> <p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】 節目となる時期に、必要に応じて医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p>
<p>進行性又は転移性の淡明細胞型腎細胞癌患者を対象とした製造販売後臨床試験</p>	
	<p>血管新生阻害剤による治療歴を有する進行性又は転移性の淡明細胞型腎細胞癌患者を対象とした国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）を、「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」の承認取得日の時点で製造販売後臨床試験と読み替えて継続実施する。</p> <p>【目的】 血管新生阻害剤による治療歴を有する進行性又は転移性の腎細胞癌に対する本剤の有効性及び安全性を検討することを目的とする。</p> <p>【実施計画】 実施期間：2012年10月～2018年4月 目標症例数（計画時）：822例（全体集団として）</p> <p>【実施計画の根拠】 国際共同臨床試験（ONO-4538-03/CA209025）での継続症例16例（2016年2月11日現在）を対象とする。</p> <p>【節目となる予定の時期及びその根拠】 報告書作成時（試験終了時）</p> <p>【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】 節目となる時期に、必要に応じて医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。</p>
<p>再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした製造販売後臨床試験</p>	
	<p>再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-15 試験）を、「再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫」の承認取得日の時点で製造販売後臨床試験と読み替えて継続実施する。</p> <p>【目的】 再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫に対する本剤の有効性及び安全性を検討することを目的とする。</p> <p>【実施計画】 実施期間：2015年1月～2020年3月 目標症例数（計画時）：15例</p> <p>【実施計画の根拠】</p>

国内第Ⅱ相試験（ONO-4538-15 試験）での継続症例 17 例（2016 年 11 月 30 日現在）を対象とする。

【節目となる予定の時期及びその根拠】

報告書作成時（試験終了時）

【当該医薬品安全性監視活動の結果に基づいて実施される可能性のある追加の措置及びその開始の決定基準】

節目となる時期に、必要に応じて医薬品リスク管理計画書（RMP）の見直しを行う。

3. 有効性に関する調査・試験の計画の概要

根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上皮癌）患者を対象とした製造販売後臨床試験	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上皮癌を除く）患者を対象とした製造販売後臨床試験	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
2つの用法・用量における根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
進行性又は転移性の淡明細胞型腎細胞癌患者を対象とした製造販売後臨床試験	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	
	2. 医薬品安全性監視計画の概要の項を参照

4. リスク最小化計画の概要

通常のリスク最小化活動	
通常のリスク最小化活動の概要： 添付文書、患者向医薬品ガイドによる情報提供・注意喚起	
追加のリスク最小化活動	
市販直後調査による情報提供（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）	
	実施期間：根治切除不能又は転移性の腎細胞癌の承認から 6 カ月間 評価、報告の予定時期：調査終了から 2 カ月以内
医療従事者向け資材（適正使用ガイド）の作成・提供	
	<p>【安全性検討事項】 間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1 型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害（腎不全・尿細管間質性腎炎を含む）、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、Infusion reaction、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、過度の免疫反応、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）、溶血性貧血</p> <p>【目的】 本剤の有効性及び安全性の包括的な情報、安全性検討事項の発現状況、早期検出と適切な診断・治療のための情報等を提供する。</p> <p>【具体的な方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業ホームページに掲載する。 ・納入時に MR が提供・説明を実施し、資材の活用を依頼する。 <p>【節目となる予定の時期、実施した結果に基づき採択される可能性がある更なる措置】 販売開始後毎月及び調査・試験結果が得られた時点において、資材配布状況、安全性検討事項の発現件数・販売量の推移を確認する。本結果から、リスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合、また新たな安全性検討事項が認められた場合あるいは新たな注意喚起や推奨事項が生じた場合には、資材の改訂、配布方法等の実施方法の改訂、追加の資材作成等を検討する。</p> <p>報告の予定時期：安全性定期報告書提出時、再審査申請時</p>
患者向け資材（オプジーボによる治療を受ける方へ）の作成・提供	
	<p>【安全性検討事項】 間質性肺疾患、重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症、大腸炎、重度の下痢、1 型糖尿病、肝機能障害、甲状腺機能障害、神経障害、腎障害（腎不全・尿細管間質性腎炎を含む）、副腎障害、脳炎、重度の皮膚障害、静脈血栓塞栓症、免疫性血小板減少性紫斑病（ITP）、心臓障害（心房細動、徐脈、心室性期外収縮等）</p> <p>【目的】 本剤の安全性に関する包括的な情報、副作用の注意喚起及び早期検出のための情報等を提供する。</p>

供する。

【具体的な方法】

- ・企業ホームページに掲載する。
- ・納入時に MR が提供・説明を実施し、資材の活用を依頼する。

【節目となる予定の時期、実施した結果に基づき採択される可能性がある更なる措置】

調査・試験結果が得られた時点において、資材配布状況、安全性検討事項の発現件数・販売量の推移を確認する。本結果から、リスク最小化策の更なる強化が必要と判断される場合、また新たな安全性検討事項が認められた場合あるいは新たな注意喚起や推奨事項が生じた場合には、資材の改訂、配布方法等の実施方法の改訂、追加の資材作成等を検討する。

報告の予定時期：安全性定期報告書提出時、再審査申請時

5. 医薬品安全性監視計画、有効性に関する調査・試験の計画及びリスク最小化計画の一覧

5.1 医薬品安全性監視計画の一覧

通常の医薬品安全性監視活動				
自発報告、文献・学会情報、製造販売後調査等より報告される有害事象症例の評価				
追加の医薬品安全性監視活動				
追加の医薬品安全性監視活動の名称	節目となる症例数/目標症例数	節目となる予定の時期	実施状況	報告書の作成予定日
市販直後調査（根治切除不能な悪性黒色腫）	該当せず	販売開始 6 カ月後	終了	作成済（2015 年 5 月提出）
市販直後調査（切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌）	該当せず	「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」の承認取得から 6 カ月後	終了	作成済（2016 年 8 月提出）
市販直後調査（根治切除不能又は転移性の腎細胞癌）	該当せず	「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」の承認取得から 6 カ月後	実施中	「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」の承認取得から 8 カ月後
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）	製造販売承認日以降 14 カ月時点の調査票回収症例（推定 200 例）/製造販売承認日から販売開始 30 カ月後までに登録された全症例（推定 1,700 例）	安全性定期報告時 製造販売承認取得 14 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 中間報告時（2016 年 3 月） 最終報告時（2019 年 5 月）
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	1,000 例	安全性定期報告時 調査開始後 12 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 中間報告時（調査開始後 12 カ月） 最終報告時（2018 年 6 月）
根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	500 例	安全性定期報告時 調査開始後 11 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 調査開始後 11 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時

				最終報告作成時 (2019年4月)
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫を対象とした特定使用成績調査(全例調査)	250例	安全性定期報告時 調査開始後13カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 中間報告時 (調査開始後17カ月) 最終報告作成時 (2019年4月)
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査(全例調査)	400例	安全性定期報告時 調査開始後15カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 調査開始後15カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時 (2019年3月)
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	35例	報告書作成時(試験終了時)及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌(扁平上皮癌)患者を対象とした製造販売後臨床試験	35例	報告書作成時(試験終了時)及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時 (2019年9月)
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌(扁平上皮癌を除く)患者を対象とした製造販売後臨床試験	76例	報告書作成時(試験終了時)及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時 (2019年9月)
化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	24例	報告書作成時(試験終了時)及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時

2つの用法・用量における根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	36例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時
進行性又は転移性の淡明細胞型腎細胞癌患者を対象とした製造販売後臨床試験	822例（全体集団として）	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時（2018年9月）
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	15例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時

5.2 有効性に関する調査・試験の計画一覧

有効性に関する調査・試験の名称	節目となる症例数／目標症例数	節目となる予定の時期	実施状況	報告書の作成予定日
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした使用成績調査（全例調査）	製造販売承認日以降 14 カ月時点の調査票回収症例（推定 200 例）/製造販売承認日から販売開始 30 カ月後までに登録された全症例（推定 1,700 例）	安全性定期報告時 製造販売承認取得 14 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 中間報告時（2016年3月） 最終報告時（2019年5月）
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	1,000例	安全性定期報告時 調査開始後 12 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 中間報告時（調査開始後 12 カ月） 最終報告時（2018年6月）
根治切除不能又は転移性の腎細胞癌患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	500例	安全性定期報告時 調査開始後 11 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時	実施中	安全性定期報告時 調査開始後 11 カ月後までに収集された調査票を解析対象とした

		最終報告作成時		中間集計解析時 最終報告作成時 (2019年4月)
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした特定使用成績調査（全例調査）	250例	安全性定期報告時 調査開始後13カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 中間報告時 (調査開始後17カ月) 最終報告作成時 (2019年4月)
再発又は遠隔転移を有する頭頸部癌患者を対象とした使用成績調査（全例調査）	400例	安全性定期報告時 調査開始後15カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時	実施中	安全性定期報告時 調査開始後15カ月後までに収集された調査票を解析対象とした中間集計解析時 最終報告作成時 (2019年3月)
根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	35例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上皮癌）患者を対象とした製造販売後臨床試験	35例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時 (2019年9月)
切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌（扁平上皮癌を除く）患者を対象とした製造販売後臨床試験	76例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時 (2019年9月)
化学療法未治療の根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売	24例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時

後臨床試験				
2つの用法・用量における根治切除不能な悪性黒色腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	36例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時
進行性又は転移性の淡明細胞型腎細胞癌患者を対象とした製造販売後臨床試験	822例（全体集団として）	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時 （2018年9月）
再発又は難治性の古典的ホジキンリンパ腫患者を対象とした製造販売後臨床試験	15例	報告書作成時（試験終了時）及び安全性定期報告作成時	実施中	報告書作成時

5.3 リスク最小化計画の一覧

通常のリスク最小化活動		
添付文書、患者向医薬品ガイドによる情報提供・注意喚起		
追加のリスク最小化活動		
追加のリスク最小化活動の名称	節目となる予定の時期	実施状況
市販直後調査による情報提供 (根治切除不能な悪性黒色腫)	販売開始 6 カ月後	終了
市販直後調査による情報提供 (切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌)	「切除不能な進行・再発の非小細胞肺癌」の承認取得から 6 カ月後	終了
市販直後調査による情報提供 (根治切除不能又は転移性の腎細胞癌)	「根治切除不能又は転移性の腎細胞癌」の承認取得から 6 カ月後	実施中
医療従事者向け資材 (適正使用ガイド) の作成と提供	安全性定期報告書提出時 再審査申請時	実施中
患者向け資材 (オプジーボによる治療を受ける方へ) の作成・提供	安全性定期報告書提出時 再審査申請時	実施中
劇症 1 型糖尿病に関する適正使用のお願いの作成・提供	—	終了
適正使用のお願い (オプジーボの適正使用について) の作成・提供	—	終了